

平成24年6月10日

No.96

<たくましく、やさしく>

社員満足度が高い長野県、伊那食品工業の社長は「いい会社を作りましょう～たくましく、そしてやさしく～」塚越寛会長は、会社を経営する目的は「永続していくこと」社員には一定の成長が必要である。それは会社が倒れないようにするため、成長自体は目的にしていません。会社まつわるすべてのことを「永続」という視点から発想してまわると言っています。寒天製造販売で48期連続で増収増益を達成、それも大きく伸ばすのでなく、ケレツツこのことです。全員が同じ目標を持ち、会社全体が社員にとって家族적인雰囲気、社員旅行は全社員が楽しみ、雪が降ったし強風が吹けば、社員は上、日でも自主的に会社によてきて、雪かきや掃除をしている。社員には「常に思いやりを持ち」と伝える。社員に何か起きたとき、会社一丸となって応援する。社員の家が火事に遭ったときは会社のお金で家を建てたことがある。「いい会社を作りましょう～たくましく、そしてやさしく～」伊那食品工業は たくましく、やさしくも両方を実践しています。「たくましく」は、48期連続増収増益だと思っています。困難に立ち向かい努力しなければ増収増益とはなりません。経営は増収(粗利増)だと思っています。増収しなければ社員への給料が上がることが出来ません。会社の社会貢献は雇用と納税です。「やさしく」は常に思いやりを持ち、買い物時は常に遠く場所へ駐車する、掃除、会社一丸で応援することだと思っています。思いやりがキーワックを生みだし、同じ方向に行動するこことなります。塚越寛会長は「やさしく」だけでは会社が永続できないことを知っています。「人のいいこと」をしていたのでは、事業を継続していくのが難しいのです。たくましく仕事を、たくましくお金を稼ぐ、と言っています。思いやりも大切ですが、甘やかすは成長(自立)を妨げます。私も自分の力もないのに「いい人」になったりしています。思いやりではなく、自己満足の気がします。発展途上の経営者は、「いい人」は禁物だと感じました。 高林幸裕